

オープン カレッジ

2015年9月の国連の持続可能な開発サミットにおいて持続可能な開発目標(SDGs)が採択された。SDGsは、①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に保健と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまち

SDGsによる共有価値創造の展開

体的な17の目標とその下に169のターゲットを掲げ、2030年の達成を目指している。

国連は2000年に2015年までの目標としてミレニアム開発目標(MDGs)を定めたが、これは主に発展途上国を対象とした政府主導によるものであった。

SDGsはMDGsに続くものではあるが、政府だけでなく企業やNPO等のあらゆる団体や個人が取り組むことで実現を図るものである。国と国との関係が、2国間関係を基軸としたインターナショナルから地球規模での多国間関係を重視するグローバルに移行した

や資源への配慮(Environmental)、労働環境の向上や女性の活躍促進(Social)、法令順守による企業統治(Governance)の三つの

観点から投資先を選ぶというESG投資が重視されるようになり、それらに反した企業への投資を打ち切ることまで起こっていることから、企業はSDGsに積極的に取り組まざるを得なくなっている。

企業にとってSDGsはCSV(Creating Shared Value、共有価値の創造)としてチャンスである。例えば、LIXILは水道や電気などが整備されていない発展途上国向けのトイレの普及を図っている。トイレの普及は衛生環境の向上だけでなく、「学校にトイレがないために女子が教育を受けられない」といった状況の改善につながり、女子教育や女性の社会進出の促進となり、SDGsの複数の目標を達成するものとなる。

自動車は電気自動車や自動運転が普及することで環境への配慮や安全性を高めること、さらにはカーシェアリング等の新たな制度への移行が期待されており、新規産業の育成につながる。一方でそれらの新技術には巨額の研究開発費やインフラの整備が必要となる。ESG投資により優れたCSVの取り組みを支援することはSDGsの達成に大いに貢献するものとなる。

ESG投資での積極的な支援を

づくりを⑩つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさも守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しようという具



山女学園大学 学部准教授
現代マネジメント
水野 英雄

みずの・ひでお 国際経済学、貿易政策、経済政策。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。1968年生まれ。

ここで、課題解決のためには地球規模で取り組むことが必要となった。SDGsは、まさにそのような地球規模でのさまざまな主体による取り組みである。

SDGsは政府だけでなく民間企業やNPO等も含まれていることから、企業においてSDGsへの関心が高まっている。企業がSDGsを遵守しない、具体的に環境を悪化させたり、劣悪な児童労働を行ったりした場合には、消費者や投資家が離れていくことが危惧される。特に、環境